

事前評価個表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|------------|--------------------|--------|------|------|--------|--|--|------|----------|--|------|------|---------|--|--|------|--------|
| 事業名 | 森林環境保全整備事業 | 事業実施計画期間 | 平成31年～平成35年度(5年間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | (ちくまがわじょうりゅう) 千曲川上流森林計画区 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 東信森林管理署 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の概要・目的 | <p>本事業は、千曲川上流森林計画区の上田市を含む4市6町5村に所在する約59千haの国有林野を対象としている。本計画区は長野県東部で千曲川上流部に位置し、国有林野の現況は人工林47%、天然林43%及び高山帯等のその他10%となっている。人工林の樹種別割合は、カラマツ86%、アカマツ8%、ヒノキ4%、その他2%と、信州カラマツの発祥地であることから、カラマツが占める割合が極めて高い地域である。</p> <p>本計画区の国有林野は、森林計画区的全森林面積の約33%であるが、奥地に所在していることから、水源涵養や山地保全の役割を果たしている。特に、その90%が水源かん養保安林に指定されており、年間降水量が少なく、農業用水をため池に依存している本地域の重要な水源地の役割を担っている。</p> <p>森林資源が充実する中、主伐再生林の更新作業の実施、除伐や間伐等の保育作業の適期を迎えている林分も多いことから、間伐作業の実施等、なお一層の森林整備の必要性が高まっている。さらに、本計画区内では、カラマツ材の生産及び利用に係る木材加工業が発達しており、国有林材の安定供給が求められている。</p> <p>また、上信越高原国立公園等に指定され、多くの貴重な自然を有しており、菅平高原など森林を利用したスキー場や森林浴等の保健休養の場として多くの人々に利用されるなど、観光資源としての特性も兼ね備えている。</p> <p>平成30年度上半期に実施した完了後の評価では、地元長野県から「今後とも、計画に沿った着実な事業実施に努めていただくとともに、伐採から造林までの一貫作業システムの定着や低密度植栽等の低コスト造林技術の確立など森林整備事業全体のコスト縮減策について、民有林の指南役としての役割が期待される。」と意見を頂いている。</p> <p>このため、本事業においては、これら地域から求められる役割を果たすとともに、地球温暖化防止にも積極的に寄与することを目的として、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p> <table border="0" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">主な事業内容</td> <td style="width: 30%;">森林整備</td> <td style="width: 20%;">更新面積</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">868 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育面積</td> <td style="text-align: right;">6,920 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td style="text-align: right;">12.2 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>改良延長</td> <td style="text-align: right;">5.4 km</td> </tr> </table> <p>総事業費 6,392,144 千円 (税抜き 5,918,652 千円)</p> | | | 主な事業内容 | 森林整備 | 更新面積 | 868 ha | | | 保育面積 | 6,920 ha | | 路網整備 | 開設延長 | 12.2 km | | | 改良延長 | 5.4 km |
| 主な事業内容 | 森林整備 | 更新面積 | 868 ha | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 保育面積 | 6,920 ha | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 路網整備 | 開設延長 | 12.2 km | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 改良延長 | 5.4 km | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 費用便益分析 | 総便益(B) | 15,636,016 | 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総費用(C) | 8,457,072 | 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分析結果(B/C) | 1.85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中部森林管理局事業評価技術検討会の意見 | 事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当と判断される。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 地域から求められる役割を果たすとともに、地球温暖化防止に寄与するためには健全な森林を育成する必要があることから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性 費用便益分析の結果に加え、列状間伐や高性能林業機械の導入等従来の施業方法を見直して生産性の向上に努めるとともに、下刈回数削減等保育事業の低コスト化を進めるなど、現地に応じた効率的な工種・工法を採用していることから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性 保育等の森林整備を通じ、多面的機能を発揮する健全な森林の育成に資するものであり、路網の整備についても森林整備と | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

連携したものとなっていることから、事業の有効性が認められる。

新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備が効率的に計画されていると認められる。

便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業
施行箇所：千曲川上流森林計画区

都道府県名：長野県
(単位:千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|---|------------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 6,152,032 | |
| | 流域貯水便益 | 840,174 | |
| | 水質浄化便益 | 2,004,216 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 3,929,769 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 976,479 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産等経費縮減便益 | 27,530 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 892,280 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 10,402 | |
| | 森林整備促進便益 | 761,237 | |
| 維持管理費縮減便益 | | 41,897 | |
| 総 便 益 (B) | | 15,636,016 | |
| 総 費 用 (C) | | 8,457,072 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{15,636,016}{8,457,072}$ | | = 1.85 |

森林環境保全整備事業 千曲川上流森林計画区(長野県) 事業概要図

千曲川上流森林計画区

中部森林管理局管内 森林計画区位置図



笹生育地での下刈作業



平成28年度 東信森林管理署 下刈

高性能林業機械による木材搬出

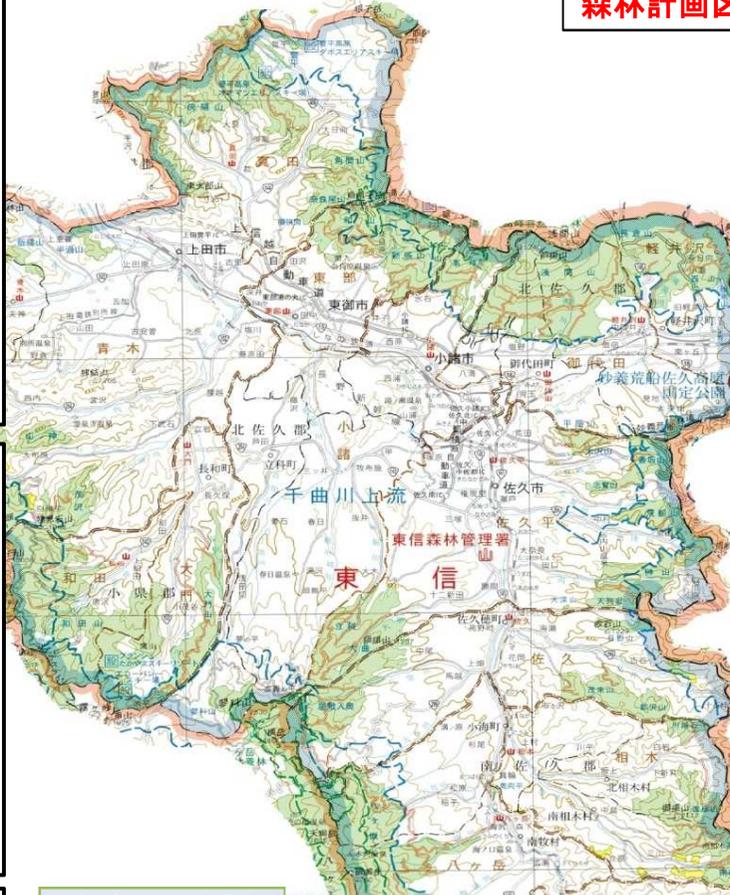


平成29年度 東信森林管理署 保育間伐

森林整備事業 (間伐作業)



平成29年度 東信森林管理署 保育間伐



保育間伐作業



平成26年度 東信森林管理署 保育間伐

林業専用道新設工事 (施工前)



(施工後)



平成29年度 東信森林管理署 四方原林業専用道新設工事